平成１７年度
（２００５）
第４５回大会

男子優勝　札幌藻岩　　女子優勝　札幌日大

【　大会寸評　】

大会期間は、爽やかな晴天に恵まれ最高のコンディションで熱戦が繰り広げられた。団体戦男子は、札幌藻岩高が１６年連続２６回目、女子は札幌日大高が２年ぶり３回目の優勝を遂げた。特に、札幌藻岩高は今春の全国選抜大会個人戦ベスト６の千葉直也を中心に抜群の安定感で、完全優勝を遂げた。また、女子の札幌日大高は、準決勝の旭川東高、決勝の札幌清田高戦ともチームワークの良さを発揮して優勝を遂げた。また、男子はベスト４全てが札幌勢となり、札幌勢強しを印象づけた。しかし、女子は旭川東高と函館白百合高が３位に食い込み、地方のシードを守った。個人戦シングルスは、男子は千葉直也（札藻岩）、女子は渡辺廣乃（旭川東）が優勝した。特に千葉と渡辺の実力は全国レベルで、渡辺も３２年振りに札幌勢以外の優勝者となった。他に全国大会に出場する選手は、男子が、岡田真（札藻岩）、伊藤悠太（札日大）、佐藤翔太（札開成）、女子は藤原舞（札清田）、堀舞美（札日大）、臼木李紗（旭川東）の各選手である。個人戦ダブルスは、男子は札幌藻岩高どうしの決勝戦になり、千葉・本川組が制した。特に、千葉直也（札藻岩）は２年連続の三冠達成でその偉業に敬意を表したい。女子は、旭川勢どうしの決勝戦となり、渡辺・臼木組（旭川東）が制した。他に全国大会に出場する男子は、岡田・中村組（札藻岩）、女子は、木下・加藤組（旭実業）の各選手である。

特に今年度は、日・中・韓ジュニア交流競技大会が８月に札幌で開催された。その全日本チームに千葉直也（札藻岩）が選出され、また今大会個人戦シングルスベスト４に進出した選手で構成された北海道チームも出場できる機会に恵まれた。また、７月には北海道体育協会主催の極東ロシア地域との親善交流事業が札幌で開催された。これには今大会団体男女各ベスト４に進出した学校から２～４名の選手を遠出し、男女各２チーム編成で出場した。

【　全国大会　】

千葉県柏市で行われたインターハイは、連日晴天に恵まれ猛暑の中、予定どおり試合が消化された。ただし、連日の猛暑のため１日に何度も救急車が患者を搬送するという状態

だった。団体戦は女子の札幌日大高が健闘し、ベスト８入りを果たした。特に、3 回戦で第４シードの強豪宮崎商業高を２－１で撃破した試合は立派であった。男子の札幌藻岩高は初戦で東山高（京都）に０－３で敗れた。今大会の団体戦では、男子は柳川高（２３回目・福岡)、女子は仁愛女子高（初・福井）が優勝を遂げた。個人戦シングルスで男子は全員初戦敗退の寂しい結果だったが、女子は渡辺廣乃（旭川東）が３回戦、藤原舞（札清田)、堀舞美（札日大）の両選手は初戦を突破し２回戦に進出し健闘した。個人戦ダブルスは、女子が初戦で全て敗退する厳しい結果となったが、千葉・本川組（札藻岩）は、自らのシードを守り猛暑の中ベスト８に進出した点は立派であった。今大会全体を通して感じた事は、猛暑のため勝敗がテニスの技術より、選手の体力の消耗度で決定してしまっているという点である。特に、個人戦で１試合８ゲームを４試合消化しなければならない日程は、あまりに苛酷であるという印象を受けた。今後大会運営の検討が必要になるであろう。

優勝のよろこび　　男子　　札幌藻岩高等学校

我々札幌藻岩高校男子テニス部は、今年で高体連北海道支部大会１６連覇を達成した。我々にとって北海道大会で優勝するということはとても意味があり、重要なことである。なぜなら我々札幌藻岩高校男子テニス部が北海道大会で負けるということは、緒方寿人前監督や前之浜監督や多くの先輩方が築いてきた伝統を崩すということだからだ。我々はそうしたプレッシャーの中、日々練習を行い、試合に臨んだ。そしてそのプレッシャーの中、春季大会、札幌支部大会を勝ち上がり、北海道大会に挑んだ。北海道大会の決勝というのは、周囲の人の目にはどんなに余裕があるように見えても、絶対勝たなければならないというプレッシャーは並大抵のものではない。苦戦を強いられる。しかしそのプレッシャーに打ち勝って優勝した時は何とも言えない喜びが込み上げてくる。そして伝統を守ったのだという満足感が込み上げてくる。本当に、つくづくそう思った。後輩達も同じ喜びを味わってほしい。そしてこの伝統を守っていってほしいと思う。

（　札幌藻岩高校　主将　　千葉　直也　）

優勝のよろこび　　女子　　札幌日大高等学校

私たち３年生にとっては最後のインターハイです。去年のインターハイでは、惜しくも決勝で負け「全国出場」という目標は果たせないで終わってしまいました。ですから、私たちは、来年は絶対優勝して全国に行くという気持ちを胸に今まで練習してきました。しかし、部員全員が、１２年生の頃は選手として一度もプレーしたことが無く、３年生にとっては、最初で最後のインターハイ。とても緊張する中で行わなければならない試合となりました。でもその緊張に負けないで、一人一人が決して諦めずにボールを追いかけ、全

力を出しきってでもぎとった優勝でした。みんなが声をあげて大喜びした優勝の瞬間は、忘れることができません。

忘れてならないのは、試合には出ない部員全員が頑張ってくれたことです。練習中のボール拾い、コート整備。試合当日は、声が枯れるくらい応援してくれていた部員の支えがあったからこそできた優勝だと思います。勝ったときには全員で喜び、負けたときには全員で悔しがり、そしてまた頑張って練習し・・・・・そうやって、前だけを見て進んでいくというチーム力が一番の勝因だったのではないかと思います。

最後に、今まで支えてくれた我妻先生、そしてそのほかのたくさんのみなさん、本当にありがとうございました。

（　札幌日大高校　主将　　堀　　舞美　）

全国高校総体（第９５回全国高等学校庭球選手権大会）　　千葉

８月２日～８日　　千葉県立柏の葉公園庭球場
柏市柏の葉庭球場
柏市富勢運動場庭球場

男子　個人戦シングルス　　優勝　　杉田　祐一（湘南工科大附）
女子　個人戦シングルス　　優勝　　伊藤絵美子（日大三島）